# 専大玉名高吹奏楽部 全国大会で銀賞

## 専大北上高 銅賞

第42回マーチングバンド・カラーガード全国大会（12月14日、さいたまスーパーアリーナで開催）の高等学校の部・マーチングバンド部門（小編成）で、専修大学玉名高校（熊本県玉名市・松野孝則校長）吹奏楽部VENTURESが華麗な演技と演奏を披露＝写真。銀賞に輝いた。同高の全国大会出場は13年連続。

また、専修大学北上高校（岩手県北上市・高橋等校長）吹奏楽部もマーチングバンド部門（中編成）で銅賞に入賞した。全国大会銅賞は3年連続。

# 裁判員制度を語り合うラウンジ

## 神田キャンパスで 飯准教授が主宰

誰でも参加できる、裁判員経験者との定例交流会「裁判員ラウンジ」が12月13日、神田キャンパスで始まった。3カ月に1回、裁判員経験者や弁護士を囲み、裁判員制度について語り合うもので、「導入から5年たった裁判員裁判を身近に感じる場にしたい」と飯考行准教授（法社会学）が主宰。関心を寄せる学生や法学部OB、研究者、元裁判所職員ら約20人が参加した。

初回ということもあり、男女5人の裁判員経験者に学生3人（杉崎千春さん、佐藤里紗さん、関本滉平さん＝いずれも法2）が質問する形で進行した。「日当の額は」「メンタルサポートは」「裁判員制度の今後をどう考えるか」などのやり取りから、裁判員の心理的負担や判決言い渡し後の情報公開へと話題が広がり、それぞれの経験や意見の違いから討論が進む。「受刑者や出所者の社会復帰を支援する活動を模索している」という発言もあり、「〝裁判員は大変〟としか思っていなかったが、経験して終わりではないというお話に考えさせられた」（関本さん）。4月から飯ゼミで学ぶ3人は休憩を含め約3時間、異なる立場のさまざまな意見に耳を傾けた。

▲ 対話が弾み「次回が楽しみ」の声も 左から２人目が飯准教授

神田キャンパス5号館で3、6、9、12月の第2土曜日に開催する予定。チラシなどで近隣の住民にも参加を呼びかけていく。次回は3月14日14時から。詳細はhttp://www.saibanhou.com/rounge.html

## 公開模擬裁判

専大附属高
専大松戸高

11月8日、神田キャンパスの法廷教室で、専修大学附属高校と専修大学松戸高校の生徒92人が参加し、公開模擬裁判（エクステンションセンター主催、東京弁護士会法教育センター協力）が行われた。

生徒たちに法曹界や法律に関心を持ってもらおうと1995年から開催され今年で20回目。

今回は窃盗未遂罪の成立を問うシナリオ。検察官役の附属高校生徒、弁護人役の松戸高校生徒が弁護士から指導を受けつつ審理。質問や異議が飛び交い、予定時間を大幅に超え盛り上がった。

終了後、全員が参加した座談会では、活発な意見交換が行われた。生徒たちからは「貴重な体験だった」との感想が多く寄せられた。

▲ 検察側から鋭い質問が飛ぶ

## 県立川崎高でSIAが授業

本学と高大連携協定を結ぶ神奈川県立川崎高校の国際系科目「国際理解・国際交流」で、国際協力サークルSIAのメンバーが授業を行った。

参加したのは峰崎はなこ代表（法2）ら4人。峰崎さんらはSIAで実施したカンボジアスタディツアーについて、映像を交えて紹介した。

後半は4グループに分かれてワークショップを実施。「さまざまな国を見てみよう」などの4テーマを設定し、サークル活動や個人での渡航経験を通して見たことや感じたこと、考えたことなどを高校生に伝えた。

▲ カンボジアで感じたことを伝える峰崎さん

## 専修人の新しい本 〈校友〉

### 毛の力

山口ミルコ著

大手出版社の編集者として20年、数々のベストセラーを世に送り出した山口ミルコさん（昭63文）は、会社を退職後に発覚した乳ガンの治療のため全身の毛を失った。毛のない生活は、著者に新たな生活感、生き方をもたらす。

編集者時代の激務から一転、おだやかな暮らしを送る中で、自分の名前ミルコ（ミールはロシア語で世界、平和の意）のルーツであるロシアへ旅立つことを決意。

極寒のハバロフスク、そして先住民族ウデヘの住む村と「毛皮のために命を狙われた」クロテンを追う。そこで、人間と動物や自然との関係、あらゆる生物の命のつながりに思いを馳せる…。

話題となった闘病記『毛のない生活』から2年、新作『毛の力』では、著者のささやかだが深い発見の数々が、しなやかに綴られている。（小学館・1300円＋税）

## アドニスカップ・沖縄ゴルフ大会

第13回校友会アドニスカップ・沖縄ゴルフ大会が、11月27日、沖縄県うるま市の沖縄ロイヤルゴルフクラブで開催された＝写真。約30人が熱戦を繰り広げ、兼村明氏（元育友会沖縄支部役員）個人優勝、伊藤順子氏（平4経済）がベストグロス賞に輝いた。

なお、懇親会でチャリティーを実施し、被災学生等支援金として全額を専修大学に寄付した。

## 第47回衆議院議員選挙結果

（2014年12月14日投開票）

堀井学氏（ほりい・まなぶ＝平6商・42歳）北海道9区、自民前、当選2回。

稲津久氏（いなつ・ひさし＝昭57商・56歳）北海道10区、公明前、当選3回。

小熊慎司氏（おぐま・しんじ＝平4法・46歳）福島4区、維新前、当選2回。

浜田靖一氏（はまだ・やすかず＝昭55経営・59歳）千葉12区、自民前、当選8回。

馳浩氏（はせ・ひろし＝昭59文・53歳）石川1区、自民前、当選6回。

中根一幸氏（なかね・かずゆき＝平12大学院法修・45歳）比例代表北関東、自民前、当選3回。

## 税理士試験合格の卒業生へ

本学出身の会計士・税理士の会である専修大学会計人会（吉田伸江会長）では、合格者の方への支援やネットワークづくりのため、2014年度税理士試験に合格した（科目合格者も含む）卒業生の情報を求めています。

合格者の方は、校友会事務局（☎03・3265・7579、E-mail:koyuka@acc.senshu-u.ac.jp）までご連絡ください。ご協力をお願いいたします。

## アドニス70号刊行

校友会誌「アドニス70号」が1月15日に発行された。巻頭は「新春TOP座談会」（日高義博理事長、矢野建一学長、坂田隆石巻専修大学長、甘竹秀雄校友会長）。また「われら専修人」では北條卓夫さん（昭38商経）ら活躍する校友5人を、「校友の店」では杉浦英昭さん（昭49商）を紹介する。

## 教育研究振興協力資金募金のお願い

専修大学は、1880年（明治13年）の創立以来、多くの方々に支えられて今日に至っております。

現在、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に置き、人間性豊かな倫理観のある人材の育成を目指し、骨太の大学改革に取り組んでおります。創立140年、そして150年に向けてさらなる躍進を続けるために、皆様方のご支援、ご協力を賜りますことを切にお願い申し上げます。

専修大学募金局　☎03・3265・3157

※詳しくはホームページをご覧ください。ネットバンクを使ったホームページからのお振り込みと、コンビニエンスストアからのお振り込みができるようになりました。

## 自分の常識は他人の非常識？

Stop Campus Harassment ハラスメントのないキャンパスへ

世の中にはいろいろな人がいます。学生の立場から見ると、大学という場はほんの数歳の幅の同世代が大多数なので、お互いの考えを理解しやすいと感じているかもしれません。しかし、それでも性別、出身地、家族構成など家庭環境、ほんの少しの年齢差などによって、一人一人のもつ常識は異なってきます。年齢の幅の広い教職員同士や、教職員・学生間ともなれば、ますますその違いは大きくなります。

もう20年近く前になりますが、私が大学入学のために上京する際、父に言われた言葉の一つが「大学生になると服装は自分で決められる。でも、自由だからといって何を着て行っても良いってわけじゃないぞ。TPOというものがあるんだ。ジーンズなんてはいていくなよ」でした。あと数年で古希を迎える父にとってジーンズは「作業着」であって、学校に着て行くようなものではなかったようです。

しかし、今の大学はもちろん、私の頃でさえジーンズはごく普通の服装でしたし、それをとがめる先生もいませんでした。

「大学での服装」一つでも、たとえ父娘であっても、常識に差があります。常識が違えば、当然、面白いと思うことやつらく感じることも変わります。冗談のつもりが相手を悲しませたり、真面目な相談のつもりが軽く流されてしまったりという経験は誰しもあるでしょう。

世の中にはいろいろな人がいます。自分の常識を過信しすぎて人を傷つけることの無いようにしたいものです。

（キャンパス・ハラスメント対策室員・大月　祥子）